

質問紙の回答結果より

【家庭の様子】

小学校6年生、中学校3年生とも、「朝食を毎日食べている」「家の人と普段夕食を一緒に食べている」率が、毎年、全国平均より高くなっています。平成17年度以前の各調査では低い傾向にあったので、家庭・学校・関係機関が協力して取り組んできた結果が表れています。

【学校の様子】

中学生の総合的な学習や数学の学習で「普段の生活や将来社会に出たときに役に立つ」と思う子ども割合が低く、授業の工夫が必要であるといえます。

【地域の様子など】

小学校6年生では、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域の人に会ったときはあいさつをしている」「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と答えた率が、毎年高い傾向にあります。また、中学校3年生でも同じ傾向が見られ、地域へ

の関わりは、共通して高い項目でした。

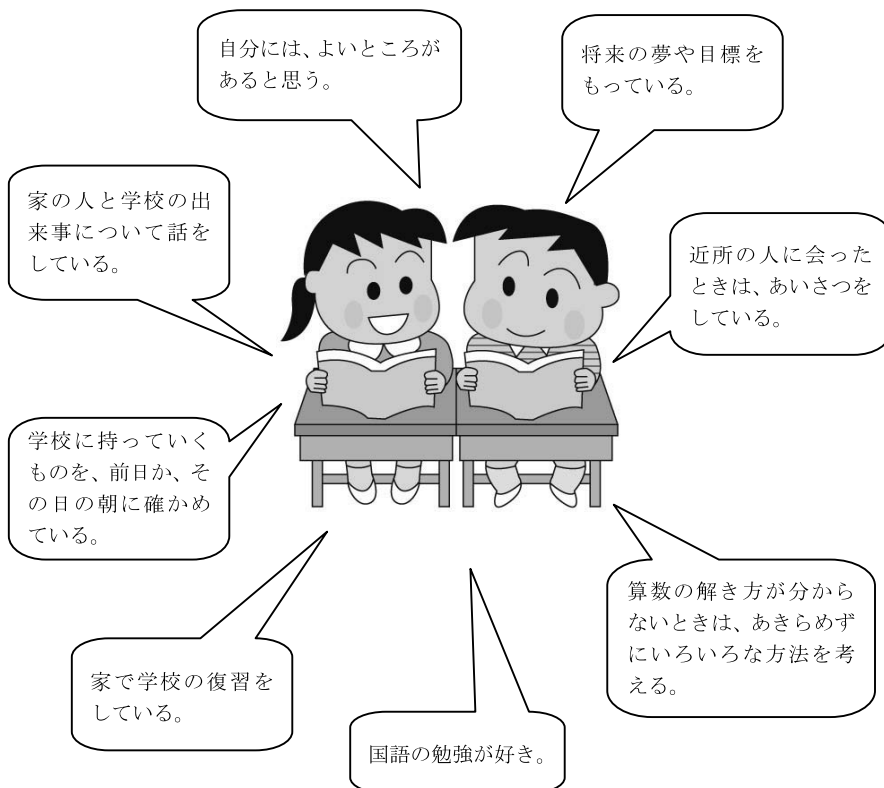
【その他の様子】

小学校6年生は、「人の役に立つ人間になりたいと思う」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」等、規範意識や生活態度の項目では、おおむね良好でした。反対に中学校3年生では、3年間よかった項目がなく、「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の項目で、学校間に差があるという傾向がありました。いろいろな人との関わりや、体験を通して、自己肯定感や将来への展望、道徳的な価値観を今後も地域ぐるみで育てていく必要があると思います。

【今後の取り組み】

各学校や教育委員会では、この全国学力・学習状況調査や他の調査を踏まえて課題を洗い出し、具体的な目標を決めて3年間の計画を策定する予定で、すでにできる

正答率が高い南部町の小学校6年生の生活習慣や学習習慣をまとめてみました
(平成19年度～21年度の全国学力・学習状況調査より)



ことから実施をしています。学校で児童生徒が心身ともに落ち着いて学習に向かい、人間らしく成長をするためには、家庭・地域・学校・関係機関が一丸となつて取り組んでいく必要があります。今後もそれぞれの立場でなすべきことを考え、お互いに連携しながら南部町の未来を担う子ども達を育てていきたいと思えます。